

# 各文構造解説

## この冊子の使い方

1つの文について、【英文】→【構造】→【解説】→【語句】の順で並んでいる。

1. 【英文】を音読する。構造と内容が理解できれば、次の【英文】に進んでよい。理解できなければ、
2. 【構造】を音読する。文の構造と、まとめりごとの訳（直訳）を確認する。さらに、必要に応じて、
3. 【解説】を読む。直訳を咀嚼して、要するにどういうことを言っているのか、内容の理解を試みる。  
この時点で理解できなければ、「解答・解説」の日本語訳（意識）で内容を確認する。
4. 理解した内容を念頭に、構造と内容が理解できるまで、繰り返し【英文】と【構造】を音読する。
5. 【語句】を音読して、意味を確認する。

最後にもう一度、できれば二度三度、本文英文を、できるだけ速く、頭から意味をとりながら読むこと。

## 凡例および注意点

凡例：

① = 大問番号    ❶ = 段落番号    ❶ = 文番号

【構造】 = 【構造】

主 = 主語    動 = 動詞    目 = 目的語    補・名 = 補語となる名詞

副 = 副詞    関代 = 関係代名詞    過分 = 過去分詞    など

「    」 = 直前部分までの訳（直訳中心）

[    ] / {    } / [[    ]] など = 注意を要する、句や節などの意味のまとめり

\*❶ = 【解説】 とくに注意を要する箇所の指摘および解説

【暗例】 = 例文。暗唱できるようになることを強くお勧めする

(    ) = 省略可、あるいは補足・別表現

[    ] = 直前の語句との入れ換え可

<    > = 重要な用語、あるいは構文・イディオム

【語句】 = 【語句】

[ | ] = 発音。左側が発音記号。右側が発音時の目安となるカタカナ表記で、ゴシック体はアクセント

⇒ = 派生語・反意語    など

注意点：

【構造】と【解説】は、既出表現や構造が平易な英文については、簡略化、あるいは省略することがある

# 各文構造解説

大問 ① 段落 ① 文 ①～⑦  
段落 ② 文 ①～②

大問 ① 段落 ② 文 ③～⑤  
段落 ③ 文 ①～③

## 1

① ① Climate change! Climate change! Climate change!

構造 Climate change! Climate change! Climate change! 「気候変動! 気候変動! 気候変動!」

語句 climate [klaɪmət | クライマト] 名「気候」

② This has increasingly become a buzzword in the last five years or so.

構造 主 This 動 [has 副<sup>1</sup> increasingly become] 目 a buzzword 「これはますます流行語になってきた」 副 in the last five years or so. 「ここ5年ほど」

\*1: 副詞は、なくても文が文法的には成立するので〈文の要素〉にはあたらな。置く場所も比較的の自由である。be 動詞の直後や一般動詞の直前に置かれることも多い。(述語) 動詞全体は現在完了形。

語句 increasingly [ɪnkrɪːsɪŋli | インクリースィングリ] 副「ますます、次第に」、buzzword [bʌzwɔːrd | バズワード] 名「流行語」、～ or so 「～かそこら」 暗例 in a day or two 「1日か2日後に」

③ It is always on the news.

構造 主 It 動<sup>1</sup> is 副 always 副<sup>2</sup> on the news. 「それは常にニュースになっている」

\*1: 〈前置詞＋名詞〉は原則、副詞句と考えるとよい。be 動詞は、ふつう第2文型として、その後に補語(C: 名詞か形容詞)が続き、内容的に〈主語(S) = 補語(C)〉が成立する。ただし、be 動詞の後に時や場所などを表す副詞句が続くことも多く、このときは、副詞は補語にならないので、第1文型と解釈できる。この場合の be 動詞は「存在する」の意味でとらえるとわかりやすい。もっとも、「be 動詞は、主語と be 動詞のあとの語句が内容的にイコールであることを表す」ことがわかっていれば、内容は直感的に理解できるだろう。

\*2: 〈前置詞＋名詞〉の句において、この名詞を〈前置詞の目的語〉という。例えば、My father gave a dictionary to me. 「父は私に辞書をくれた。」の文末の人称代名詞が目的格 me になっているのは、前置詞 to の目的語だからである。

④ People are constantly talking about it.

構造 主 People 動 [are 副 constantly talking] 副 about it. 「人々は絶えずそのことについて話している」

語句 constantly [kɑnstəntli | カンスタントリ] 副「絶えず」

⑤ Across academia, government, and the private sector, climate change is one of the most discussed topics.

構造 副 [Across academia, government, and the private sector], 「産官学を横断して」 主 climate change 動 is 「気候変動は～である」 補・名 [one of the most discussed topics]. 「もっとも議論される話題の1つ」

語句 academia [akədiːmiə | アカディーミア] 名「学問(機関)」、private [praɪvət | プライヴァット] 形「私的な、民間の」、sector [sɛktər | セクタ] 名「分野、部門」、one of the ～ 「～の1つ」(～には複数名詞が来ることが多い)、discussed [dɪskʌst | ディスカスト] 形「議論される」、topic [tɒpɪk | タピク] 名「話題、議題」

⑥ The attention it is getting has been immense.

構造 主<sup>1</sup> [The attention 関代] 主 it 動 is getting] 「それが集めつつある注目は」 動 has been 補・形 immense. 「計り知れなくなっている」

\*1: 関係代名詞は、文を、先行詞を中心とする名詞節に変換すると

きに使う記号のこと。ここでは、It (= climate change) is getting the attention. 「それは注目を集めつつある。」という文を、その文の目的語 the attention を先行詞とする名詞節に変換したもの。文の目的語を先行詞にするときの関係代名詞を〈目的格〉といい、よく省略される。ここでの主語は、先行詞を The attention とする、関係代名詞の目的格 which または that が省略された名詞節。この節が名詞のまとまりであることを、何度も音読して体得すること。

語句 attention [əténʃən | アテンション] 名「注意、注目」、immense [ɪméns | イメンス] 形「計り知れない、膨大な」

⑦ This is most likely because of its unquestionable impact on our environment.

構造 主 This 動 is 「これは～である」 副 most likely 「ほぼ間違いなく」 副<sup>1</sup> because of its unquestionable impact 「疑いようのない影響が理由で」 副 on our environment. 「環境への」

\*1: because of ～は〈前置詞＋名詞〉の副詞句だが、this is because ～ 「これは～が理由である、これはなぜなら～だからである」でフレーズとして覚えてしまうとよい。～の部分には節が来ることもある。cf. This is most likely because it has an unquestionable impact on our environment. (本文の副詞句 because of ～を、副詞節 because SV に言い換えたもの。意味はほぼ同じ)

語句 likely [laɪkli | ライクリ] 副「おそらく」 形「ありそうな」、because of ～ 「～が理由で」、unquestionable [ʌnkwestʃənbəl | アンクウェスチョナプブル] 形「疑いようのない」、impact [ɪmpækt | イムパクト] on ～ 「～への影響」、environment [envaɪərənmənt | エンヴァイアロンメント] 名「環境」

② ① Studies show that climate change affects the natural features of the earth.

構造 主 Studies 動 show 「研究は示す」 目<sup>1</sup> [that 「～ということ」 主 climate change 動 affects 目 the natural features of the earth]. 「気候変動は地球の風土に影響を与える」

\*1: 動詞 show の目的語(必ず名詞)となる that 節。文の冒頭に接続詞の that を置くことで、その文を名詞節に変換できる。例えば、I collect old stamps. 「私は古い切手を収集している。」という文を that I collect old stamps 「私が古い切手を収集しているということ」という名詞節に変換すれば、Only my father knows that I collect old stamps. 「私が古い切手を収集していることは父だけが知っている。」のように、名詞として文の中に組み込むことができる(ここでは、動詞 know の目的語として組み込んだ形)。

語句 show [ʃəʊ | ショウ] 動「見せる、示す、教える」、affect [əfekt | アフェクト] 動「影響を与える」、feature [fi:tʃər | フィーチャ] 名「特徴」

② Heavy rainfall can cause seashores to overflow in some regions, while drought can cause dry lands in others.

構造 主 Heavy rainfall 「激しい降雨は」 動 can<sup>1</sup> cause 「引き起こす可能性がある」 目 seashores 「海岸が」 to overflow 「あふれる」 副 in some regions, 「いくつかの地域で」 副<sup>2</sup> [接 while 「一方」 主 drought 動 can cause 「干ばつは引き起こす可能性がある」 目 dry lands 「乾燥地を」 副 in<sup>3</sup> others]. 「ほかの地域で」

\*1: cause O to do 「O が～する原因になる」。文型的には SVOC の第5文型で、O = C (to do) と解釈できる。このときの O が、続く to 不定詞の意味上の主語になっていることがわかればよい。

\*2: 接続詞 while が導く節は副詞節(従属節)で、主節はコンマの前まで。ふつう、主節と副詞節(従属節)では主節に重きが置かれるが、ここでは内容的に、コンマの前と後は同等の事例の並列と考えてよい。

\*3: 相関語句 some ～, others ... 「～もあれば…もある」。ここでは in some regions と in others (= in other regions) が相関関係にある。

語句 rainfall [reɪnfɔ:l | レインフォーウ] 名「降雨」、seashore [si:ʃɔ:r | シーショア] 名「海岸」、overflow [oʊvərfloʊ | オウヴァフロウ] 動「あふれる」、region [ri:dʒən | リージョン] 名「地域」、while [waɪl | ワイウ] 接「一方で」、drought [draʊt | ドラウト] 名「干ばつ」

③ We have also been informed about the increase of the earth's average surface temperature.

構造 主 We 動 [have 副 also been informed] 「私たちはまた、知らされている」 副 about the increase of the earth's average surface temperature. 「地表の平均気温の上昇について」

語句 inform [ɪnfɔ:rm | インフォーム] 動「告げる」、increase [ɪnkri:s | インクリース] 名「増加」、average [ævərɪdʒ | アヴェリヂ] 名「平均」、surface [sɜ:fəs | サーファス] 名「表面」、temperature [tɛmpərtʃuə | テムパチュア] 名「温度、気温」

④ This means that we will experience excessively hot weather during the summer, while slightly colder weather will be felt during the winter.

構造 主 This 動 means 「このことは意味する」 目<sup>1</sup> [that 「～ということ」 主 we 動 will experience 「私たちは経験するだろう」 目 excessively hot weather 「過度に暑い天気」 副 during the summer, 「夏の間」 副 [接 while 「一方」 主 slightly colder weather 「わずかに寒い天気」 動 will be felt 「感じられるだろう」 副 during the winter]]. 「冬の間」

\*1: 動詞 means の目的語は、文末まで続く that 節。

語句 experience [ɪkspiəriəns | イクスピアリアンス] 動「経験する」、excessively [ɪksésɪvli | イクセセヴリ] 副「過度に」、slightly [sláɪtli | スライトリ] 「わずかに」

⑤ Scientists expect that these global weather changes will create stronger storms and sudden floods in some areas, while others will see harsher droughts or dryness.

構造 主 Scientists 「科学者は」 動 expect 「予測する」 目 [that 「～ということ」 主 these global weather changes 動 will create 「これらの地球規模の気候変動は作り出すだろう」 目 stronger storms and sudden floods 「より強い嵐や突然の洪水を」 副 in some areas, 「いくつかの地域で」 副 [接 while 「一方」 主 others 「ほかの地域は」 動 will see 「目にするだろう」 目 harsher droughts or dryness]]. 「より厳しい干ばつや乾燥を」 語句 expect [ɪkspekt | イクスベクト] 動「予測する、期待する」、global [gləʊbəl | グロウバツ] 形「世界的な、地球規模の」、create [kri:ɛt | クリエイト] 動「作り出す」、sudden [sʌdn | サドン] 形「突然の」、flood [flʌd | フラド] 名「洪水」、see 「経験する、目にする」、harsh [há:ʃ | ハーシュ] 形「厳しい」

③ ① While there is clear evidence that climate change can affect the geography of the planet and generate severe weather conditions, can it have an impact on our health, too?

構造 副 [接 While 「～の一方」 副<sup>1</sup> there 動 is 「～がある」 主 clear evidence 「明らかな証拠」<sup>2</sup> that 「～という」 主 climate change 動 can affect 「気候変動が影響を与える可能性がある」 目 the geography of the planet 「地球の地形に」 接<sup>3</sup> and 「そして」 動 generate 「生み出す(可能性がある)」 目 severe weather conditions], 「厳しい気象条件を」 動 [can 主 it have] 目 an impact 副 on our health, 「私たちの健康に影響を与える可能性があるだろうか」 副 too? 「～にもまた」

\*1: 〈there is/are 構文〉は、動詞の後に主語が来る倒置構文で、初出の情報を述べるときに使う。この主語となる名詞は、後ろから、to 不定詞や関係詞節などでさまざまに修飾されることが多い。ここでは接続詞 While に導かれる副詞節で、従属節(コンマまで)。主節は can it have 以降(文末まで)。

\*2: that 以降コンマまでは、直前の名詞 evidence の具体的な内容を表し、evidence = that 以降の内容が成立する。このような、抽象的な名詞について、続く that 節でその具体的な内容を説明するとき、この that を〈同格の that〉という。同格の that を伴う名詞には、fact 「事実」、rumor 「うわさ」、news 「ニュース」などがある。暗例 the news that polar bears are in danger 「ホッキョクグマが危機にあるというニュース」

\*3: この接続詞 and は、次に動詞の原形 generate が続いていることから、前の can affect と (can) generate を接続するものと判断する。このような、同じレベルの語句を対等に接続する and や or など(等位接続詞)という。等位接続詞が何と何を結んでいるかは、読解するときに常に意識すること。

語句 evidence [eɪvɪdəns | エヴィデンス] 名「証拠」、geography [dʒɪɔgrəfi | ジオグラフィ] 名「地形、地理学」、planet [plænɪt | プラネット] 名「惑星、(文脈によって)地球」、generate [dʒɛnəreɪt | ジェネレイト] 動「生み出す」、severe [səvɪər | スイヴィア] 形「厳しい」、condition [kəndɪʃən | コンディション] 名「状態、条件、環境、問題」

② Recent studies on climate change actually indicate that it has a direct impact on public health.

構造 主 [Recent studies on climate change] 「気候変動に関する最近の研究は」 副 actually 動 indicate 「実際に示す」 目 [接 that 主 it 動 has 目 a direct impact on public health]. 「それが公衆衛生に関する直接的な影響を持つということ」

語句 on 前 「～に関する」(about よりも堅い表現)、recent [ri:snt | リースント] 形「最近の」、actually [æktʃuəli | アクチュアリ] 副「実際に、実は、それどころか」、indicate [ɪndəkeɪt | インディケイト] 動「指し示す」、direct [dərekt | ディレクト] 形「直接の」、public [pʌblik | パブリク] 形「公共の、公衆の」、health [helθ | ヘットウ] 名「健康、衛生」

③ According to Patricia Espinosa, executive secretary of United Nations Climate Change, and Richard Horton, editor-in-chief of the British medical journal *The Lancet*, the change of weather and climate is already producing harmful effects on our health.

構造 副<sup>1</sup> [According to 「～によると」 Patricia Espinosa<sup>2</sup>, executive secretary of United Nations Climate Change, 「国連気候変動(枠組条約)の事務局長であるパトリシア・エスピノサ」 and Richard Horton, editor-in-chief of the British medical journal *The Lancet*], 「そしてイギリスの医学ジャーナル『ランセット』の編集長であるリチャード・ホートン」 主 the change of weather